



国内文献目次

電子情報通信学会関係の文献のみの掲載

映像情報メディア学会誌 67, 8 (2013-08)

特集 コンピュータショナルフォトグラフィ

エレクトロニクス実装学会誌 16, 4 (2013-07)

特集 スマートモバイル機器の部品・実装技術動向

応用物理 82, 7 (2013-07)

低エネルギー情報ネットワークを目指した超伝導デジタル回路開発

オペレーションズ・リサーチ 58, 8 (2013-08)

特集 声・質的データを経営・マーケティングに活かす

計測と制御 52, 7 (2013-07)

特集 社会シミュレーション&サービスシステムが目指す世界

情報処理 54, 7 (2013-07)

小特集 ノーマリーオフコンピューティング

特集 ネットワークロボット, その人と街とのかかわり

日本物理学会誌 68, 8 (2013-08)

「速い光」, 「遅い光」と群速度



図書寄贈一覧

- (252) 非線形システムが社会を動かす, 並木淳治 (著), 初版, 本体 3,000 円 + 税, 電子情報通信学会 (2013.8.25), 7/29 受付
- (253) 半導体部品の信頼性 高信頼化の歴史とフィールドデータ, 荒井英輔, 塩野 登 (編著), 初版, 本体 8,000 円 + 税, 丸善プラネット (2013.8.15), 8/14 受付

<海外からの寄贈本>

- (404) Journal of Electronics & Information Technology, vol. 35, no. 4, April 2013 (中国)
- (405) Journal on Communications, vol. 34, no. 1, Jan. 2013 (中国)
- (406) Journal on Communications, vol. 34, no. 2, Feb. 2013 (中国)
- (407) Journal on Communications, vol. 34, no. 3, March 2013 (中国)
- (408) Journal of the China Society for Scientific and Technical Information, vol. 32, no. 1, Jan. 2013 (中国)
- (409) Journal of the China Society for Scientific and Technical Information, vol. 32, no. 2, Feb. 2013 (中国)
- (410) Journal of the China Society for Scientific and Technical Information, vol. 32, no. 3, March 2013 (中国)
- (411) Journal of Electronics, vol. 30, no. 1, Feb. 2013 (中国)
- (412) 電子工學會誌, vol. 40, no. 6, June 2013 (韓国)
- (413) 電子工學會論文誌, vol. 50, no. 6, June 2013 (韓国)
- (414) 電子工學會誌, vol. 40, no. 7, July 2013 (韓国)
- (415) 電子工學會論文誌, vol. 50, no. 7, July 2013 (韓国)

編集室

* ノートパソコンを新調しようと思えば家電量販店を見て驚いた。ほとんど全ての商品で、キーボードが薄くキーの間に隙間がある。アイソレーションタイプのキーボードというそう。しかも最近の若者はこのタイプのキーボードに慣れ親しんでおり、カチャカチャと深く沈み込む従来のキーボードでは売れないらしい。長年にわたり使いやすさが追求されてきたキーボードも、その利用のされ方によって変化していくということに改めて感心した。

* 研究・開発に関する情報交換も、印刷された論文を交換して研究会で顔を突き合わせて議論する時代からインターネットで論文を公開する時代になったのも遠の昔、最近では Skype などのビデオ通話で議論するのも当たり前になった。情報を得る窓口も、インターネット上の検索エン

ジンやソーシャルネットワークなどが中心になりつつあり、会員の多くもこれらの媒体に慣れ親しんでいるだろう。

* 今年の 5 月から会誌の編集特別幹事を拝命するとともに、会誌の電子化について検討するワーキンググループにも参加することになった。会誌ではこれまでも目次や一部の記事を「話題の記事の紹介」として Web で公開することを随分前から行っており、更に会誌全体の電子化の取組みも進みつつある。キーボードがユーザに合わせて変化していくのと同様、会誌が会員にとってより使いやすい情報収集窓口となるよう、及ばずながら知恵を出していきたい。

(編集特別幹事 櫻田英樹)